公益社団法人
東京都理学療法士協会
News
NO.224

2022.11.25 発行
◆発　行　公益社団法人
　東京都理学療法士協会
◆発行人　森島　健
◆編集人　井出　大
　医療法人社団永生会
　地域支援事業部
　〒193-0942
　八王子市椚田町 583-19
　TEL :042-661-4025

エスカレーターマナーアップ推進委員会
第 13 回中日新聞社広告大賞　審査員特別賞受賞

2021 年 8 月 23 日の東京新聞朝刊に掲載した広告が中日新聞社広告大賞審査員特別賞を受賞し、9 月 9 日に授賞式が催されました。皆様の心に響く広告を作成できましたことに感謝申し上げます。
広告大賞 HP：https://onl.la/PLT1Qgb

224 号の目次

エスカレーターマナーアップ推進委員会 ･････････････････ 1～3
地域活性局 ブロック・支部活動･････････････････････ 4～10
健康増進部･･･ 11
第 42 回東京都理学療法学術大会準備委員会･････････････ 12
スポーツ局･･･ 13
スポーツ局スポーツイベントサポート部･････････････････ 13～20
スポーツ局学校保健部･･････････････････････････････ 21～27
スポーツ局障がい者スポーツ部･･････････････････････ 28～29
倫理委員会･･･ 30
理学療法関連機器開発委員会･････････････････････････ 31
広報局機関紙編集部･････････････････････････････････ 32～33
編集後記･･･ 33

エスカレーターマナーアップ推進委員会

報　告

委員長　齋藤　弘

第 42 回関東甲信越ブロック理学療法学会での都民公開講座・ブース出展

日　　時：2022 年 9 月 10 日（土）～ 11 日（日）
会　　場：日本教育会館

都民公開講座「社会的弱者のエスカレーター利用に関わる問題とソーシャルアクション～理学療法士の視点で社会課題に取り組む必要性～」と題して齋藤弘委員長が学会にて報告させていただきました。我々が活動のきっかけとなったアスリートの一言に始まり、誰もが安心・安全に過ごせる社会作りを、「エスカレーター、止まって乗りたい人がいる」をキーワードに多様性の理解の観点から活動を重ねてまいりました。地道なイベント、啓発活動、キーホルダーの作成・配布、メディアなどの広報活動を 6 年間続けて来た中で、様々な団体の活動もあり社会的な認知度の向上、一部ではエスカレーターを止まって乗る条例の公布に至った県も見られるようになりました。社会的にも少しずつ変遷を見せてきて行く中で、今までと現在、そしてこれからのビジョンを熱く伝えさせていただきました。また、エスカレーター特設ブースも展開し、現地参加された関東甲信越ブロックの方々へもご案内させていただきました。

報告者：齋藤　弘（エスカレーターマナーアップ推進委員会　委員長）

練馬消費生活展 2022 出展

日　　時：2022 年 11 月 1 2 日（土）
会　　場：石神井公園区民交流センター

今回で 50 回目の記念事業にてパネル展示を中心とした啓発活動を実施。
練馬区役所でのエスカレーターラッピングや当会ポスター掲示の効果もあってか認知度が前回より高まった印象でした。
来場者からは「理学療法士さんが、どうしてこの活動を？」との質問には、私たちの視点をゆっくり対話して伝えられる有意義な会でした。

報告者：小林潤（保谷厚生病院）

エスカレーターマナーアップ推進委員会

報　告

委員長　齋藤　弘

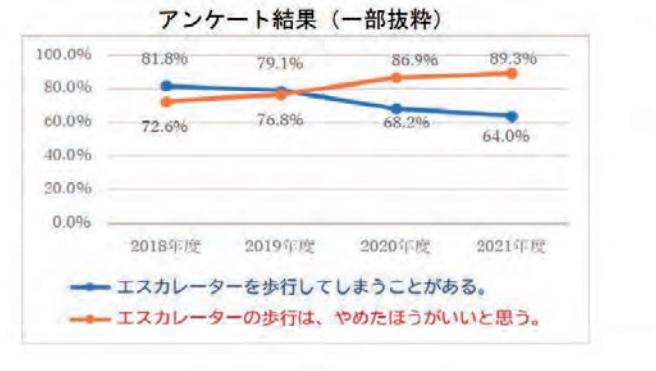
11 月 10 日はエレベーターの日

一般社団法人日本エレベーター協会の活動で毎年「エレベーター・エスカレーター安全利用キャンペーン」を行っております。当協会での協力として希望施設にはポスター配布を行っておりますので、エスカレーターマナーアップ推進委員会事務局小林和樹（Mail：esca.pttokyo@gmail.com）までご連絡ください。駅や電車内など多くの場所に掲示されておりますのでぜひ見つけてみてください。

一般社団法人　日本エレベーター協会：https://www.n-elekyo.or.jp/index.html

11 月 10 日は「エレベーターの日」

2022 年 11 月 10 日の「エレベーターの日」に合わせ、エレベーター・エスカレーターの利用における更なる安全意識の浸透を目指し、国土交通省からの後援と昇降機関係団体からの協賛を受けて「エレベーター・エスカレーター安全利用キャンペーン」を全国で実施します。本キャンペーンでは、当協会が製作したポスター・ステッカーを、全国の電車・バスなどの乗り物や各種公共施設内などに掲示します。昨今、埼玉県の条例として施行されたことでも注目されている、エスカレーター上の歩行について調査したところ、「エスカレーターの歩行は、やめたほうがいいと思う」人の割合は毎年増えており、2021 年度は 89.3%に達しました。また、「エスカレーターを歩行してしまうことがある」人の割合は減少傾向で、64.0%となりました。



人権教育教材制作プロジェクト始動

慣習や風習を少しつづ変化させる価値として、今年度新たに「わけがあってこちら側に止まっています～心のバリアフリー～」と題して、小学生向け教材制作プロジェクトを開始しました。

プロジェクトには、当事者･小学校校長･特別支援学校教員･大手広告代理店・メディア関係者等に参加頂き、多面的な視点で人権教育に活用いただける教材作成を進めております。

年度内には、短編の紙面教材を完成させる予定ですのでお楽しみにしていてください。

Facebook

＜エスカレーターマナーアップ推進委員会＞

〇各種お問い合わせ（Mail）：esca.pttokyo@gmail.com

〇エスカレーターマナー 動画公開：https://youtu.be/MRBqxaKEEMM

〇 Facebook URL：https://goo.gl/nnXZcQ

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤 幹夫

区中央部区南部島しょブロック部　大田区支部

おおたスポーツ健康フェスタでの体操指導及び健康相談

日時：令和４年 10 月 10 日
場所：大田区立大森第三中学校

内容：今回は第 37 回大田区民スポーツまつりにおいて、健康相談や健康体操を行いました。健康体操では、腰痛予防をテーマに自身の姿勢を確認し、それに合ったストレッチや筋力トレーニングの指導を行いました。参加者の方の中には日頃から腰痛でお悩みの方も多くいらっしゃり、そのような方々からは自身の姿勢を確認し、自分にあったトレーニングがわかったことで、今後日常の中で継続して行っていきたいなどの感想も聞かれました。今後も地域のイベントにおいて予防や改善などの指導に力を入れて、皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。

報告者：竹之内優香（蒲田リハビリテーション病院）

区中央部区南部島しょブロック部　大田区支部

おおたユニバーサル駅伝大会での健康相談

日時：２０２２年１０月３０日（日）
場所：平和の森公園周辺コース

内容：第１５回おおたユニバーサル駅伝大会の開催において、運営設備の設置協力、伴走コースの安全確認、障碍者や車いすの方々の介助支援を行いました。

　コロナ禍で規模を縮小し、２年ぶりの開催となりましたが、多くの参加者が性別、年齢、障害、国籍を問わず、さまざまな選手５人と伴走サポーター３人、チームリーダ２人の計１０人が協力し合い、タスキをつなぎました。

　ユニバーサル駅伝という一つのスポーツを通して、互いに支えあい、楽しく交流することができ、共生社会の大切さを感じた貴重な機会となりました。今後も地域の方々との交流を通して、安心して暮らせるまちづくりをサポートしていきたいと思います。

報告者：金枝真希子（トータルライフケア蒲田訪問看護ステーション）

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック　練馬区支部

「第 45 回練馬まつり」

開催日：令和 4 年 10 月 16 日（日）
開催場所：練馬駅北口周辺およびマロニエ通り周辺
参加者：理学療法士 8 名
主催者：練馬まつり推進協議会（練馬まつり運営スタッフ委員会、練馬区）
【概要報告】

理学療法を通じて都民の医療・福祉・保健の増進を目的に、3 年ぶりの開催となる「練馬まつり」に特設ブースを設置して参加させて頂きました。

内容としては、柔軟性の測定、握力の測定、体組成の測定、健康相談の 4 項目を実施しました。柔軟性の測定では、立位体前屈にて FFD を評価し、性別・年齢別の平均値と比較し、適宜ストレッチの指導を行いました。握力測定に関しては、柔軟性と同様に性別・年齢別の平均値と比較してフィードバックをさせて頂きました。また、体組成の測定では、In Body を用いて行い記録用紙を印刷するとともにその結果をフィードバックして、生活指導や健康相談を実施しました。

3 年ぶりの参加ではありましたが、10 時から 15 時まで列が切れることはなく盛況で終えることができました。また、来場された方は、小さなお子様からご高齢の方まで幅広くおり、約 150 名の方に参加して頂きました。来場者の方からは、「これからストレッチしてみます」や「少し運動をみようかしら」等のお声を頂きました。また、多くの来場者の方から「体組成」についての質問を頂き、区民の方々の健康に対する意識の高さを知ることができました。

引き続き、都民の皆様からのご要望にお応えできるよう企画運営させて頂きます。会員の皆様におかれましては、引き続きご協力の程宜しくお願い致します。

報告者；公益社団法人地域医療振興協会　練馬光が丘病院　黒澤塁

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック部　板橋区支部

第８回いたばしウォーキング大会

内容：

東京都理学療法士協会板橋区支部では地域への社会貢献・協会の普及活動として板橋区スポーツ振興課と協働し板橋区のスポーツ活動をサポートしています。この度３年ぶりに『いたばしウォーキング大会』が令和４年11月３日（木）に開催され、板橋区支部に所属する理学療法士13名で大会のサポートを行ってきました。

サポート内容はコースの途中・ゴール地点の２か所に理学療法ブースを設置して身体の相談会や体力測定の実施、チェックポイントやゴール地点での区職員のサポートを行いました。２か所の理学療法ブース利用者は約120名で大変大盛況でした。

ウォーキング大会に参加される方々の多くは普通に日常を送っている方が大半ですが、理学療法ブースに来られた方の中には身体に悩みがある人が多くいらっしゃり理学療法士という職種の必要性を改めて感じた大会でした。しかし、我々理学療法士という職種を認知されていない方も多く、さらなる普及活動も必要だと感じました。

コロナ禍ということもあり非接触での対応が多く、前回大会までとは異なる対応でのサポートでしたが広く社会貢献と協会の普及活動が行えた有意義な大会サポートとなりました。

報告　竹川病院　リハビリテーション部　武田　俊一

区西北部ブロック部　練馬区支部

豊島区委託事業令和４年度フレイル機器活用講座報告

日時：令和４年９月13日（火）　13:30～15:00　（13回終了／全18回）

場所：区民ひろば長崎

参加人数：10人　（今年度は計169名）

講師：鈴木享之（長汐病院）　アシスタント：關詩織（長汐病院）

報告：

昨年度より引き続き豊島区支部では、豊島区役所から事業委託を受け、豊島区内のフレイル予防センター・各区民ひろばに設置されている※下記の装置に対する①測定結果の見方、②動作改善のための具体的な運動方法について（参加者、関係者並びに支部員の健康に留意した上で）の講座を行いました。※フレイル予防機器（A：歩行姿勢測定システム・NEC社/B：ザリッツ・タニタ社）

今回区民ひろば長崎ではザリッツを用いて椅子からの起立動作から参加者のパワー・バランス・スピードの３項目の運動機能を測定し、測定結果から分かることや結果を受けてどのような運動に取り組めばフレイルを予防できるのか等、実技を交えた講座を行いました。実技や講座も大変盛り上がり、終了後のアンケートでは参加者の全員の方から「大変良かった」「今後も機器を利用したい」という大変嬉しい結果を頂きました。

引き続き区民の皆様にフレイル予防機器に興味を持って頂き、継続的な利用と健康増進につながる様、活動して参ります。

報告者：村本幸祐（ゆみのハートクリニック）

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック部　練馬区支部
【豊島区委託事業】転倒予防教室

日付	講師	アシスタント
8 月 24 日高松	片見奈々子（都立大塚病院）	村本幸祐（ゆみのハートクリニック）
9 月 29 日千早	大久保敦子（帝京平成大学）	渡邊寿彦（ゆみのハートクリニック）
9 月 29 日さくら第一	川名健（目白整形外科内科）	古田哲郎（ゆみのハートクリニック）
11 月 8 日池袋	片見奈々子（都立大塚病院）	關詩織（長汐病院）

対　　象：87 名（2022 年 11 月 17 日　現在）

概　　要：
豊島区内の予定された区民ひろばにて前編後編（同施設にて開催）の 2 クール制の計 8 回

内　　容：
豊島区転倒予防教室（2022 年度）4 クール全 8 回の内、計 7 回が行われましたので、ご報告をさせて頂きます。COVID-19 が流行する前は測定（2 ステップテスト、5 回立ち上がりテスト）を実施していましたが、ソーシャルディスタンスを確保する観点から測定は実施せずに、座って距離を保ちながらの開催が継続となっています。

内容は前半講座では知識 2 割、実技 8 割程度の割合で、実技メインで転倒予防に関連のある包括的な運動メニューの紹介を行い、後編では概要～実技までの幅広い内容での講座となりました。参加者の傾向としては 1 年以内での転倒歴の有無は有が約 4 割となっており、区の高齢者の転倒経験割合より多い数字となっています。そのため皆様の関心も高く、毎回安定した定員申し込み状況となっています。

豊島区支部の運営が始まって以来、最も歴史ある講座となっていて、毎年少しずつ形を変えながら今の形に辿り着いています。一定の手ごたえを感じているのは、体験を行うことは学習効果が高いという事であり、体験を重視しながら、来年度は感染対策を検討した上での測定の再開に関しても、関係者間で議論して、検討していければと思います。

報告者：渡邊　寿彦（ゆみのハートクリニック）

報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部　練馬区支部

介護予防大作戦！ in としま　2022「ポストコロナのフレイル予防」

日時：令和４年 10 月３日 (月)　9:30 ～ 15:30
場所：
としま区民センター（豊島区東池袋 1-20-10）
対象：ブース来場者 約 60 名
参加スタッフ：關詩織（長汐病院）
鈴木享之（長汐病院）　林康太郎（長汐病院）
片見奈々子（東京都立大塚病院）
田邊泰雅（目白整形外科内科）
山田愛晃（ゆみのハートクリニック）
磯部美与（ゆみのハートクリニック）
長谷川蓮（目白大学理学療法学科４年）

概要：

毎年 10 月に開催されている “ 介護予防大作戦！ In としま ” が今年もコロナに負けず、開催となりました。本イベントは豊島区高齢者福祉課が主催となっており、豊島区民を中心に都民に対して健康や介護予防についての情報を発信する年に１度のイベントです。今年のテーマは「ポストコロナのフレイル予防」ということで、コロナ禍において運動機能の低下や人と人とのつながりが希薄となる中、コロナに負けないフレイル予防として①講演会、②自主グループ様の発表・体験、③展示ブースにおける測定・ミニ講座の３本立てで開催されました。

内容：

豊島区支部は測定ブースを出展し、日本理学療法士協会が作成した評価バッテリー「E-SAS」を使用して評価を行い、下記の内容を実施しました。

・E-SAS による評価を行い結果に合わせたフィードバック
・評価結果をもとに運動機能改善のための運動の紹介や外出機会向上のためのアドバイス
・評価結果に合わせ、豊島区で行っている介護予防やフレイル予防のための事業や自主グループ様・出前講座のご紹介
・豊島区支部員で作成したチラシの配布、理学療法の啓蒙活動

報告：

昨年に引き続き、コロナ禍での体力低下を心配される方も多く、今回のイベントでは「自分の強みや弱みがわかった」、「地域で行っている介護予防の取り組みを知れてよかった。ぜひ参加します」とのお声をいただき、都民の方々の介護予防への関心の深さを感じる事が出来ました。また、本事業は毎年理学療法士を目指す学生の参加を推奨しており、地域での理学療法士の役割を伝える場とし、今年も１名の学生に参加していただきました。学校や実習とは違った理学療法の新しい１面を伝えることで次世代の理学療法士へ、地域での理学療法士の役割を伝える機会としています。今後も理学療法士として、都民の皆様の健康・介護予防への期待に応えられるよう、地域に寄り添いながら支部活動を続けていきたいと思います。

報告者：關 詩織（長汐病院)

報　告

局長　中澤　幹夫

区区西北部ブロック部　練馬区支部
区民ひろばにおける運動器の健康増進支援講座
「パパといっしょにからだを動かして遊ぼう」

日時：2022 年 10 月 22 日 (土)　10:30 ～ 11:30
場所：区民ひろば千早
対象：12 組　(24 名)
講師：鈴木享之 (長汐病院)
アシスタント：西垣有希子 (調布市こども発達センター)
概要：

フレイル予防講座を行った区民ひろばにて、２階の子どもひろばを見学させて頂いた際「パパさん向けの子どもと遊べる何かを行いたいのだが、講師を探すのが大変なのです」と言うお話しから、今回の講座を行うきっかけを頂きました。育児における男性の関りも多様化する時代に合わせ、子どもの発達発育についてじゃれつき遊びを用いて学び、ご自宅でも行える内容としました。

内容：

・理学療法士の説明
・発育発達に関する話し
・じゃれつき遊び各種
・ボール遊び各種

報告：

12 組のお父さんとお子さん（年齢 2 歳～ 4 歳）が参加されました。褒める･笑顔を作る･撫でる･くすぐるなどのスキンシップの大切さをお伝えしたのち、「たつ・おきる・まわる・くむ・ぶらさがる（バランスをとる動き)」などの「幼児期に身につけておきたい 36 の動作」をもとにじゃれつき遊びをおこないました。最初は慣れないパパさん達も途中から積極的に動きのアレンジを行うようになり、子ども達の笑い声が響く楽しい場となりました。子どもとの遊びは、パパさんにとっても良い運動となった様子で程よい疲労感も得られた様です。

終わりに、子どもひろばの担当者様より、来年度のお願いと 1 月にも再度「パパといっしょに」の講座を行って欲しいとの依頼も頂くことができました。

今後は、豊島区支部だけでなく親子講座を行っている他支部とも連携し、理学療法士としてより良いものを提供して行けたらと思いますので、同じ様な講座を開催されている支部または興味のある支部の方々からご情報を頂けますと非常に嬉しいです。是非ともお声掛け頂けたらと思います！
お待ちしております！！

報告者：鈴木享之（長汐病院）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤　幹夫

区西部西南部ブロック　渋谷区支部
スキルアップ研修会

テーマ：ピラティスを取り入れた運動療法
～Online　マットピラティス体験と臨床応用の理論～
日時：11 月 4 日（金）　19:30 ～ 21:00
開催方法：Zoom を使用したオンライン研修
講師：
整形外科スポーツ・栄養クリニック代官山／ピラティスラボ代官山／青山 Reserve
増渕喜秋（理学療法士、NCPT：米国国家認定ピラティス教師、渋谷区支部副支部長）
参加人数：約 100 名（申込 122 名：他県士会含む）参加職種：理学療法士、作業療法士、看護師、等
内容：

近年、神経疾患だけでなく運動器疾患、慢性疼痛領域においても患者教育として身体の使い方の学習、すなわちモーターコントロールエクササイズ（MCE）の効果が示唆されています。今回の研修では、MCE の代表的な動作療法であるピラティスについて講演いただきました。

ピラティスの理論に関する座学に加え、臨床場面でもよく行われる四つ這いやお尻上げなどのベッドやマットで行う運動療法にピラティスを取り入れた実技体験も実施いただきました。参加者の動作をライブで講師がチェック、口頭でファシリテーションを行い、最後に効果を確認し合う、といった双方向のやりとりを行い、大変盛り上がりました。研修後のアンケートでは、「実技を交えてのオンライン講義は初めてだったが、とても楽しく分かりやすかった」、「講師のファシリテートの仕方、言葉選び、トーン、対象者をのせる声掛け、誘導が参考になった」といった感想を複数いただきました。

オンライン研修でも実技体験を取り入れられるという新しい可能性への気づき、双方向やり取りの充実感、満足感も得られた、とても有意義な研修会となりました。

報告者：野間貴雄（初台リハビリテーション病院）

渉外部

報　告

部長　吉葉　則和

東第 49 回国際福祉機器展　出展報告

2022.10.5~7 に第 49 回国際福祉機器展に出展しました。今回は 3 年ぶりの通常開催となり、3 日間で 88,521 人の参加者が来場し、会場の熱気も例年通り熱いものを感じられました。ブース内では理学療法士の PR 動画や福祉機器の使い方や腰痛予防の映像講座を放映し、参加者の皆様に理学療法士の役割を伝えることができたと感じています。またブースに立ち寄って頂いた方から理学療法士と事業を共催したいとの問い合わせや、機能障害に対する個別の問い合わせも多数頂き、理学療法士が一般の方から必要とされていると感じられました。

今回もブース内にエスカレーターマナーアップ啓発のパネルを掲示し、理学療法士の活動に共感して頂きました。次年開催は第 50 回となるため、私たち理学療法士が都民の皆様の近くにいる事を周知できるようしっかりと準備していきたいと思います。

文責：蒲田リハビリテーション病院　荒木達也

報　告

部長　小澤　伸治

東京都理学療法士協会及び NPO 法人東村山子育て支援ネットワークすずめ主催　スキルアップ研修会「産後リハビリテーション」の開催

去る 10 月 8 日、東村山子育て総合支援センターにて東京都理学療法士協会及び NPO 法人東村山子育て支援ネットワークすずめの主催にてウィメンズヘルスケア「産後リハビリテーション」を開催しました。

今回は感染対策のため参加人数を限定しての企画となりましたが定員を超える多くの方から参加の希望を頂きました。プログラムは産後の体の変化、授乳抱っこ姿勢、骨盤底筋運動等、座学での講義を行った後、実際に乳児を交えての実技演習をおこないの理学療法士の専門性を活かした内容となりました。

その後の質疑応答も活発にあり改めてこの領域におけるニーズの高さを実感しました。

第 42 回東京都理学療法学術大会について　第１報

公益社団法人
東京都理学療法士協会

第42回
東京都理学療法学術大会

幸福社会に向けた理学療法士の可能性
～フレッシュパワーの躍動～

2023年9月17日(日)

赤羽会館（現地開催）

〒115-0044 東京都北区赤羽南1-13-1

大会長

卜部　吉文

新富士病院グループ
医療法人財団 逸生会 大橋病院

準備委員長

真庭　弘樹

医療法人社団 明芳会
イムス板橋リハビリテーション病院

Facebookにて
最新情報発信中！！

【問い合わせ】大会事務局長 中村 大祐
辻内科循環器科歯科クリニック
E-mail：42-pttokyo@shoyokai.net

スポーツ局

報　告

局長　板倉　尚子

青山学院大学体育連合会フェンシング部／全日本学生フェンシング選手権大会報告

第 72 回全日本学生個人選手権大会が大山崎町体育館（京都府）で 11 月 15 日（火）～ 20 日（日）に開催され、主将の大木皓三郎がプール戦を勝ち抜きトーナメント戦に進出しました。青山学院大学体育館フェンシング部男子では 15 年ぶりの快挙とのことです。大木主将より西條攻部員、山田祐太朗部員をはじめサポートメンバーに御礼がありましたのでお知らせします。

報告者　スポーツ局長／板倉尚子

西條さん、山田さんをはじめとしたトレーナーの方々のサポートがあったからこそ、目標としていたインカレに個人で出場し、トーナメントまで上がれたと思います。御二方をはじめとした理学療法士の方々がいなければ、青学のフェン部は筋トレの方法もあまり分からないまま、適当に筋トレをして、今よりレベルの低いフェンシングをやっていたと思います。本当にお力添え感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします！！

報告者　青山学院大学体育連合会フェンシング部　主将　大木皓三郎さん

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】JAPAN RISING STAR PROJECT

日 時：2022 年 10 月 2 日（日）
会　場：日本大学文理学部キャンパス
参加者：17 名
サポートスタッフ：4 名

この度、令和 4 年度 JAPAN RISING STAR PROJECT に参加して参りましたので、報告させて頂きます。今回、理学療法士スタッフは体力測定の測定員として参加致しました。

測定は形態測定、パワーの評価、持久力の評価などを実施しました。一緒に測定員として障がい者スポーツトレーナー、障がい者スポーツ指導員の方々とも協働しておこなうことができ、対応など勉強させて頂く機会となりました。

測定を受けられる方はこれから本格的にスポーツを始めようとされている方、既にクラブで活動されている方など様々でしたが、22 競技の代表者がプレゼンをされ、自身の身体にあった競技を体験しながらこれからの活動を検討されている姿を間近で見ることができました。

このようなプロジェクトを通して参加者から競技者への可能性を見出すことの必要性も感じることができました。また、競技力向上にも貢献していければと思います。今回ご協力下さいました皆様、有難う御座いました。

報告者：スポーツ局　スポーツイベントサポート部　部長　渡邊祐介

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】フェンシング大会会場サポート

日　時：2022 年 9 月 8 日～ 11 月 13 日（延べ 14 日間）

場　所：北区滝野川体育館、北区赤羽体育館、駒沢オリンピック公園体育館、
　　大蔵第二運動場体育館

参加者：延べ 1393 名

参加理学療法士数：延べ 28 名

・東京都シニア個人選手権大会（9 月 18 日、10 月 22 日・23 日・29 日・30 日：5 日間）

会場：北区滝野川体育館、北区赤羽体育館

参加者 426 名（対応 19 件）、参加理学療法士 10 名

・第 75 回全日本学生フェンシング南関東予選会（団体戦）（10 月 8・9 日：2 日間）

会場：大蔵第二運動場体育館

参加者 101 名（対応 5 件）、参加理学療法士 4 名

・第 74 回関東学生フェンシング選手権大会（個人戦・団体戦）（10 月 11 日～ 13 日・20 日・21 日：5 日間）

会場：駒沢オリンピック公園体育館屋内球技場

参加者 748 名（対応 48 件）、参加理学療法士 10 名

・第 19 回剛騎杯フェンシング大会（11 月 12 日・13 日：2 日間）

会場：大蔵第二運動場体育館

参加者 115 名（対応 5 件）、参加理学療法士 4 名

スポーツイベントサポート部では上半期に引き続き東京都フェンシング協会様、日本学生フェンシング連合様、関東学生フェンシング連盟様より御依頼を受け、フェンシング競技大会の会場サポート活動を行っております。

下半期の活動を迎えるにあたりスポーツ局外部委員の阿部新治郎先生、日本フェンシング協会医・科学委員中山修一先生に参加して頂きフェンシング大会上半期報告会を実施しました。弁護士、医師の立場から理学療法士がスポーツ現場活動を行うにあたり助言を頂きました。頂いた助言をもとにスポーツ現場活動場面での課題を参加者で共有し下半期の活動に生かせるようにしております。

下半期では関東学生フェンシング大会（関カレ）や剛騎杯と大学生向けの大会が多く開催されております。大学生は成人選手に比べ、コンディショニングが不十分な選手が多い印象を受けます。その為、日頃のケア方法やトレーニングの指導に費やす時間を多くしています。また連戦による疲労で対応件数が多くなっている日もみられております。サポートに入ると前回受けた指導内容が良かった、コンディションが良くなった等の感想を頂けることがあり、日頃の活動が選手の役に立っていると実感でき非常に嬉しく思います。今年度の大会も残り少なくなってきておりますが最後まで事故のないようサポートに励んでいきたいと思います。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】EDORIKU　パラ陸上教室サポート

日　時：2022 年 10 月 29 日、11 月 12 日
会 場：江戸川区陸上競技場
参加者：延べ 15 名
理学療法士：延べ 8 名

2022 年度江戸川区パラ陸上教室の今回の開催では、初参加の方、久しぶりに参加される方など、多くの参加者の笑顔が見える賑やかな開催となりました。

今回の開催では、体力測定だけでなく、マット運動、スタート練習、10 分間走、インターバル走など競技力向上を目指し、しっかりと身体を動かすメニューが多く組まれておりました。また、講師の先生からの座学の講義では、体力の要素についてのお話や骨模型を使っての姿勢や車いすの操作についてのお話がありました。特に車いす操作においては、日常生活から操作方法を変えることで競技力向上につながるという内容でした。

講義後に自主的に復習している参加者もおり、楽しんで参加するとともに、速く走りたいという意識の変化も感じました。この教室の中で私たちはレーサー車いすの調整、参加者への準備体操及び整理体操、レーサー車いすへの移乗動作、シーティング調整、走行の補助を通して参加者の皆さまが安心して参加して頂けるようサポートしております。これからもスポーツを通していろんなことへ挑戦していただけるきっかけになるよう、今後もサポートしていきたいと思います。今回サポートに参加してくださいました皆さま、ありがとうございました。

報告者：スポーツ局 スポーツイベントサポート部 伊藤弘崇 (新渡戸記念中野総合病院)

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

日　時：2022 年 8 月 20 日、9 月 10 日、9 月 24 日、10 月 22 日、10 月 29 日　（計 5 回）
参加者：延べ 93 名
参加理学療法士：延べ 13 名

青山学院フェンシング部のサポートでは定期的にフィジカルテストを実施しています。フィジカルテストの目的はスポーツ障害の予防やサポートスタッフや選手自身がトレーニング効果を実感できること、測定結果よりトレーニング内容を検討することです。今回のテストからチーム全体の身体機能を考慮して新しいテストを取り入れました。フェンシングは捻挫や肉離れ多いとされていますが、部内の選手にも同様の既往歴を持つ選手がいるため、それに特化したテストを組み込むことで障害予防やパフォーマンス向上に繋がると感じています。徐々に選手や監督より痛みを抱えてプレーする選手が減ってきていると、嬉しいコメントを頂いております。テストの測定結果はチーム・個人の課題として、監督・コーチ・選手と共有して部員全体がコンディション良く大会出場や練習に参加できるようにサポートできればと思っております。引き続き、学生のスポーツ活動支援を継続できればと思います。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部
山田祐太朗（元気ジム大泉学園）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】すぎなみスポーツアカデミー障害者サポーター講座
「ボッチャ」「はじめの一歩」

日　時：ボッチャ：10 月 9 日、30 日 10 時～ 18 時、11 月 12 日　12 時～ 18 時

はじめの一歩：9 月 17 日、10 月 15 日　9 時 30 分～ 12 時 30 分

会　場：ボッチャ：永福体育館、都立永福学園

はじめの一歩：荻窪体育館、TAC 杉並区上井草スポーツセンター

理学療法士：延べ 9 名

参加者：延べ 64 名

　スポーツイベントサポート部では昨年に引き続き、杉並区でのすぎなみスポーツアカデミー障害者サポーター講座「ボッチャ」「はじめの一歩」のサポートを行っております。

「ボッチャ」「はじめの一歩」ともに障害者についての講義を受講し、ボランティアスタッフと共にボッチャ教室、障がい者スポーツ教室を運営していく事業となります。

理学療法士として専門的な立場から、身体の動かし方や障害特性を考えての環境設定などを助言しながらのサポートが主な役割となっております。

　参加者は障害の有無に関わらず、幅広い年代の方が参加されます。中でも知的障害、肢体不自由の方が多く参加され、普段の臨床では経験する事の出来ない事が多く、大変勉強になります。

「ボッチャ」は全 4 回シリーズとなっております。東京都障害者スポーツ協会の講師の先生より障害特性を学び、東京都スポーツ文化事業団の指導の元、体験教室を運営していく運びとなります。

　「はじめの一歩」は全 6 回シリーズで元日本体育大学教授の野村一路先生より、障害者特性を学び、参加者のアセスメントを行った上で競技を考え、環境づくりやプログラムを立案して教室を運営していく運びとなります。

杉並区は多くの障害者の方が教室に参加され、楽しみながらスポーツを行っております。

　そこに理学療法士が参加していると参加者の方から「安心して参加出来る」などの嬉しい声が聞かれ、理学療法士の存在が大きいことをとても感じます。

　すぎなみスポーツアカデミーは我々も一緒に体験しながら楽しんでサポートする事が出来ます。障がい者スポーツに興味をお持ちの方で、楽しみながらサポートをしてみたい方がいらっしゃれば是非、スポーツ局までご連絡をお待ちしております。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　西條攻（三宿病院）

【活動報告】第 1 回ユニバーサルタイム

日　時 :2022 年 10 月 23 日 (日) 9:30 ～ 12:30
会　場 : 荻窪体育館
理学療法士 :5 名
参加者 : 約 60 組

スポーツイベントサポート部では杉並区での障がい者スポーツ支援のサポートを行なっており、今年度より新事業の「ユニバーサルタイム」が企画され、第 1 回が開催されました。

「ユニバーサルタイム」はこれまで障がい者スポーツ教室に参加された方のアンケートから「こんな場所があったらいいな」「もっと自分に合ったスポーツをやりたい」「気軽に運動出来る場所があったらいい」などの杉並区民の声から生まれた事業です。

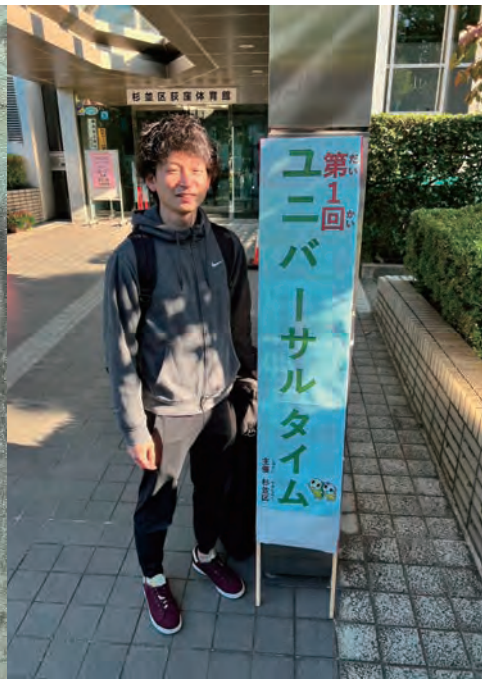
本事業には多くの団体・行政が関わり、杉並区の障害者ネットワーク会議を通して本番に向けて準備をして参りました。

理学療法士の役割は「ラン・ウォーク・フリーエリア」「体の相談・リハビリエリア」に配置し、参加者の姿勢や歩き方の指導や、肢体不自由の方に対しての身体評価や運動指導、ストレッチ等を行いました。当日は約 60 組のお子さんから高齢者の方まで参加され、視覚障害、知的障害、肢体不自由の方など様々な障がいをお持ちの方が来場されました。開始から終了まで多くの参加者の方々は楽しまれておりました。理学療法士を求める方も最後まで後が絶たず大盛況でした。

「ユニバーサルタイム」はまだ始まったばかりですが、将来的には 1 回 / 月の開催を目指しています。杉並区内の体育館で随時開催していく予定であり、もっと大きな事業になっていく事が予想され、将来的にとても楽しみな事業です。

「ユニバーサルタイム」を通して、理学療法士の役割の大きさや地域活動の大切さを改めて感じました。障害の有無に関わらず楽しく参加出来る様、杉並区民の皆様の為に引き続きサポートして参ります。

報告者 : スポーツ局スポーツイベントサポート部
西條攻（三宿病院）



【活動報告】EDORIKU パラ短距離記録会　兼　EDORIKU 短距離記録会

日　時：２０２２年１１月５日（土）
場　所：江戸川区陸上競技場
参加者：延べ７３名（健常選手７０名・パラ選手３名）
参加理学療法士：３名

この度、江戸川区陸上競技場で行われた「EDORIKU パラ短距離記録会　兼　EDORIKU 短距離記録会」のサポートをさせて頂きました。参加された方々の年齢層は小学生から成人までと幅広く、レーサー車いすを使用したパラの短距離記録会も同時に開催されました。

今回、理学療法士の業務は記録会中の救急対応やパラ短距離記録会参加者への会場サポートであり、日々の病院業務では経験出来ないレーサーへの移乗介助やシーティング調整、テーピング等、こちらがサポートをする立場ではありますが、学ぶべきものが多くありました。特にシーティングの調整では、姿勢が安定するよう参加者とコミュニケーションをとりながらアライメントの評価や調整を行ったため、理学療法士の評価技術や知識が役立ち、大変嬉しく思いました。

パラ選手を含めた記録会は今回が初開催であり、今後継続するかは検討中とのことでしたが、次回もサポートさせていただける機会があれば幸いと思います。

最後に、関わられた皆様に多大なお力添えを頂き、大きな事故や急病人など出ることなく無事に記録会を終了することが出来ました。ご協力して頂いた江戸川区陸上競技場職員の方々、理学療法士の先生方、そして大会にご参加された全てのアスリートの皆様に感謝を申し上げます。

報告者　スポーツ局　障がい者スポーツ部　宮川 大（緑秀会　田無病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】東京レガシーハーフマラソン 2022　パラ陸上教室 in 国立競技場

日　程：2022 年 10 月 15 日（土）

会　場：国立競技場

参加者：パラ陸上教室全体参加者 31 名（車いす陸上教室 8 名）

参加理学療法士数：4 名

2022 年度も江戸川区様より「EDORIKU　車いす陸上教室」のサポート依頼を頂き、東京マラソン財団様と関東パラ陸上競技協会様のご協力のもと、今春も活動が始まりました。10 月より、当該教室の対象を車いす陸上からパラ陸上に拡充し、開催することとなりました。

今回は、東京 2020 大会レガシー継承と障がい者に向けたスポーツ機会の提供への普及啓発を目的に開催されます東京レガシーハーフマラソン 2022 前日イベント『パラ陸上教室 in 国立競技場』の一つとして、車いす陸上教室のサポート依頼を東京マラソン財団様から頂戴いたしました。

私たちは教室開始前にレーサー車いすの調整、参加者への準備体操、レーサー車いすへの移乗動作介助、シーティング調整や走行サポートを通して、参加者の皆さまが安心して参加して頂けるようサポートいたしました。さらに、今回はいつもと違う国立競技場が会場のため、救護室常駐の医師との連携、救急搬送時の経路の確認等、教室全体がスムーズに進行できるよう様々な団体の方々と連携を取りサポートさせて頂きました。

教室では通常の走行だけでなく、同時に開催されておりました『フレームランニング体験会』の参加者の方と一緒にトラックを走行する機会もあり、様々な方々が競技場を共有し、スポーツを通して共生社会が築かれる、素晴らしい教室となりました。

このような機会を通して参加者の方々の社会活動がさらに広がっていけるよう、今後も支援して行ければと思っております。今回ご協力下さった皆様に感謝いたします。

※写真：© 東京マラソン財団

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　鈴木真治 (森山ケアセンター)

北区立桜田保育園職員向け研修会「腰痛予防とはだし教育について

日　　時：2022 年 8 月 24 日 (水)
　　13:30 ～ 15:30
会　　場：北区立桜田保育園
対　　象：看護師及び保育士 16 名
講　　師：鈴木享之

概　　要：

近隣の保育施設における研修会に、今回の施設職員が参加されていたことが繋がりとなり今回の職員研修会の依頼を受けた。

前回の研修会同様、園児のはだし保育に関しての内容に加え、職員の間にて関心の高い腰痛予防に対しての話への要望も強かった為、今回の題名にて研修会開催となった。

内　　要：

事前のアンケートを基に、「腰痛にならない姿勢づくり」を目的とし①腰部の解剖学と荷重負荷のしくみを知る、②安全な姿勢と動作を知る、③姿勢、柔軟性、筋力強化、持久力の大切さを知る、の 3 つのテーマにて講話をしました。実際に②や③では、柔軟性のチェックなどを交え各人に必要な運動のレクチャーを行いました。

また、それらの運動から、園児たちにも運動（特にコーディネーション的要素）の重要性とそれに伴う足底からの感覚入力の大切さを伝えました。

報　　告：

具体的に、園児を抱え上げる際に腹部の筋緊張が高まる動作方法のレクチャーをすることにより、職員から「自分では良い姿勢だと思いったのが、癖がついていることに気づいた」「ストレッチやエクササイズの重要性が理解できた」などの声を聴くことができました。

また「はだし保育の重要性について、改めて考えるきっかけになった」と言う意見や、園児の立位姿勢や歩行についての質問も聞かれました。その様な内容から「ストレッチについて」や「園児を抱える時の予防動作について」「環境にあった園児のあそびについて」等次回以降への繋がりにも発展し、成果のある活動となりました。

今後も継続して、職員や園児の身体の相談等に寄り添った活動をして行けるよう研鑽していきたいと思います。

報告者：スポーツ局　学校保健部　部長　鈴木 享之（長汐病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】「豊島区立清和小学校における教諭向けコーディネーショントレーニング講習」

日　　時：2022 年 8 月 30 日 (金)　13：00~15：00

会　　場：豊島区立清和小学校

対　　象：小学校教諭　約 20 名

参加メンバー：

講師

森本孝則（Physical care room T）

アシスタント

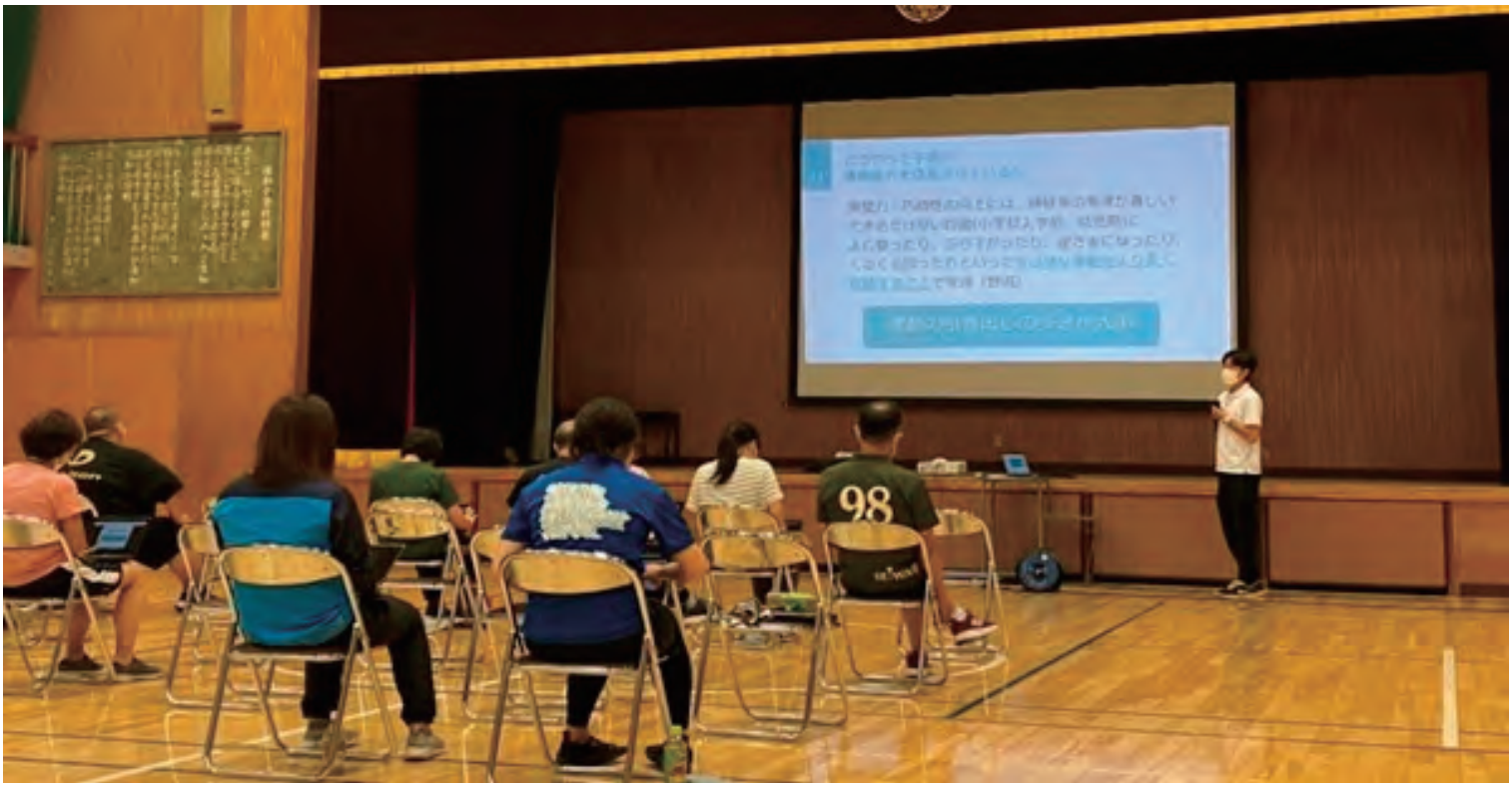
板倉尚子局長（日本女子体育大学健康管理センター）

鈴木享之（長汐病院）、齋藤弘樹

内　　容：

今年度、豊島区立富士見台小学校から豊島区立清和小学校に異動された校長先生より、児童に対するコーディネーショントレーニングの授業についての依頼を受けました。授業の実施にあたり、学校の先生方とトレーニングの目的や内容を共有するために講習会を開催させて頂きました。当日は、児童達に生じている運動機能の変化や二極化している現状、コーディネーショントレーニングの 7 つの能力要素についての説明と実技を行いました。先生方にもトレーニング内容を経験して頂きました。授業内で予定している運動を経験して頂き、運動負荷量や安全面も知ってもらうことが出来ました。事前に講習会を開いたことで、より安全で楽しい授業構成になるように先生方と考える機会にもなりました。このような積み重ねを行っていき、理学療法士への活動依頼が増えていけるようにしたいと思います。

報告者：スポーツ局　学校保健部　副部長　齋藤弘樹（大橋病院）



【活動報告】防災サイコロ in 荒川区立第三日暮里小学校

日　　時：9 月 26 日
対　　象：20 名（防災クラブ小学 4 年生・5 年生・6 年生）
講　　師：佐伯潤先生（スポーツ局外部委員）、運営補助 2 名
アシスタント：板倉尚子先生（日本女子体育大学健康管理センター）、渡邊祐介

内　　容：

今回、荒川区立第三日暮里小学校へ安全教育として防災サイコロの授業を実施しましたので、報告させて頂きます。対象は小学 4 年生から 6 年生の防災クラブ所属の生徒でした。　授業の中に仮想災害の映像が流れ、そのあと「どこに避難するか？」という問いかけに対して、積極的に話し合い、活気のある発表の場となっておりました。社会で働いている大人であっても災害を想定した行動を考えることはとても大変な事だと思います。

安全の為の教育を学生の頃から実施していく必要性を多く感じる授業となりました。これからも理学療法士としてケガの対応や移動の方法などを継続して伝えていけると、更なる社会貢献に寄与出来ると感じました。今後も安全教育の活動ができればと思います。

＜授業の様子／荒川区立第三日暮里小学校ホームページ掲載＞
https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/DAI3NIPPORI-E/1009006/1010075/1011327.html

報告者：スポーツ局　スポーツイベントサポート部　部長　渡邊祐介

【活動報告】「豊島区立清和小学校　コーディネーショントレーニング授業」

日　　時：2022 年 9 月 27 日 (火) ～ 29 日 (木)
　　1 校時～ 4 校時
会　　場：豊島区立清和小学校　体育館
対　　象：全校児童
講　　師：森本孝則（Physical care room T）、
　　山田祐太朗（元気ジム大泉学園）
アシスタント：板倉尚子（日本女子体育大学健康管理センター）、
　　齋藤弘樹（大橋病院）、
　　鈴木享之

概　　要：
8 月 30 日の教諭向けコーディネーショントレーニング講習会を経て、全校生徒を対象としたコーディネーショントレーニング教育を行った。

内　　要：
・姿勢指導
・準備体操
・アニマルトレーニング各種
・ボールトレーニング各種
・ラダートレーニング各種

報　　告：
　まず、前額面・矢状面におけるランドマークを用いた姿勢指導を行い、次に低学年・中学年・高学年と難易度を変えた各種トレーニングを行いました。バランスを崩してしまったり柔軟性の不足にて動きの滑らかさが低下していたりする児童もおりましたが、全体的には全校児童が楽しそうに取り組めていた様子でした。教諭からのアンケートでは「クラスごとに教えて貰えて良かった」「低中高学年の発達段階に合わせて分かりやすかった」「種目や内容に合わせて準備運動で取り入れられる動きを教えて頂きたい」「家庭でもできるものを資料として配布できると連携できてよい」等好評と共に次回以降への課題も頂けました。
　今後も、児童生徒における保健教育・保健指導・安全教育を理学療法士として学校やご家庭に提供できるよう研鑽して参ります。

報告者：スポーツ局　学校保健部　部長　鈴木 享之（長汐病院）

【活動報告】「東京保育士会　保健部会研修会 ～コロナ禍の子どもの体力低下～ 」

日　　時：2022 年 10 月 14 日 (金)　13:30 ～ 16:00
会　　場：オンライン研修会
対　　象：東京保育士会　保健部会会員　60 名
講　　師：鈴木享之

概　　要：

全園児検診や職員研修会のサポートを行っている施設職員が会員となる保健部会にて、「コロナ禍において子どもたちの体力低下が問題視されるなか、園児たちの体力にも影響をきたしているのか、そして影響があるならば改善策としてはどの様にしたらよいか」との声に応える研修会の依頼がありました。

内　　容：

・現代の子どもの様子（運動・スポーツと身体の二極化）と環境について。
・コロナ時代と呼ばれる子どもの体力低下（小学生・中学生／幼児期）について。
・体力とは？
・神経発達について。
・持久力（心肺機能及び筋持久力）について。
・質疑応答

報　　告：

子どもたちにおける「運動・スポーツと身体の二極化」が進む現代社会において、外傷・障害予防だけでなく生活習慣や感染予防等も含めた安全教育の大切さがクローズアップされています。その様な中で、「体力がなくなった」「怪我が多くなった」「集中力が低下した」などの運動不足に起因するのではないかと言われる質問に応えるデータを基に、受講戴いた方々とその後の 45 分と言う質疑応答時間にて更に深いディスカッションを行うことができ有益な時間となりました。

様々な子どもに合わせた、実技等をオンラインでお伝えするのはなかなか難しいですが、１例１例を大切に現場の先生方とディスカッションを重ねつつ子どもたちの未来がピッカピカになる様前進して行きたいと思います。

報告者：スポーツ局　学校保健部　部長　鈴木 享之（長汐病院）

【活動報告】中央区立明石小学校（姿勢体づくり）

日　　時 :2022 年 10 月 27 日 (木)
場　　所 : 中央区立明石小学校
講　　師 : 齋藤弘樹先生（大橋病院）、森本孝則
アシスタント：板倉尚子先生（日本女子体育大学健康管理センター）

概　　要 :

明石小学校に正しい姿勢と体つくりについての勉強会を行ってきました。明石小学校では昨年生徒さんのアンケート結果より姿勢について問題があるといった結果が多かった事から、私達東京都理学療法士協会に御依頼を下さりました。

内　　容 :

今回の授業では、低中高学年に分け授業を行なってきました。姿勢によって、体の動かしやすさや呼吸のしやすさが変わる事を体感してもらうと生徒さんのから驚きの声が聞かれました。正しい姿勢についても何を指標とするかをお伝えし、授業の前後の挨拶でしっかりと正しい姿勢になる事が重要と言う事を伝えました。
座った姿勢では「グー、ペタ、ピン」という合言葉を実践されていましたが、立った姿勢では「グー、スー、パッ、ピン」という新たな合言葉を提案し生徒さんと実践をしました。

今後も正しい姿勢で、普段の学校生活が楽しく、怪我なく過ごせる事を心より願います。

今回このような貴重な機会を頂きました明石小学校の皆様に心よりお礼を申し上げます。

報告者 : スポーツ局　学校保健部　森本孝則 (physical care room T)

【活動報告】【土曜学習応援団事業】「豊島区立富士見台小学校における姿勢授業」

会　　場：豊島区立富士見台小学校
対　　象：１～４年生
参加スタッフ：講師／齋藤弘樹（大橋病院）
アシスタント／山田祐太朗（元気ジム大泉学園）、佐藤奈つ美、野崎剛志
内　　容：

学校保健部は、文部科学省管轄の土曜学習応援団において「学校保健教育・保健指導／アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」の登録をしています。今年度、富士見台小学校から上記の依頼を受け、土曜公開授業の日に実施しました。土曜公開授業は、保護者の皆様が授業を参観できる日となっていました。当日は、１校時目に低学年、２校時目に中学年を対象に授業を行いました。内容は、身体の機能・構造、姿勢がもたらす影響、姿勢改善の運動などについて、座学や体験･実技を行いました。理学療法士が児童１人１人の姿勢を診て、その場で修正をする時間も設けることが出来ました。クイズなども取り入れたことで、児童も最後まで集中して授業に参加してくれた印象です。今後も学校保健部の活動を通して、児童の健康維持・促進に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

報告者：スポーツ局　学校保健部　佐藤奈つ美 / 野崎剛志 (大橋病院)

【活動報告】「土曜公開授業／富士見台小学校における安全教育防災授業」

日　　時：2022 年 11 月 5 日 (土)
場　　所：豊島区立富士見台小学校
講　　師：佐伯 潤先生 (スポーツ局外部委員)
アシスタント：板倉尚子局長、西垣有希子部員、森本孝則部員
概　　要：富士見台小学校で５・６年生を対象とした『防災サイコロ』の授業を行ってきました。
『防災サイコロ』では、子ども一人ひとりが１人でいる状態で災害が発生した状況を想定し、そのときに何を考え、どう行動すべきかを考える教育です。
内　　容：富士見台小学校では、以前避難訓練も担当をさせて頂きました。今回は、座学での防災教育を行わせて頂きました。授業の中で普段身の回りにある具体的な危険な物を提示した際には、生徒たちからなるほどと言うような反応がみられました。５年生と６年生で危険な事象に対する予測に差が生じることが分かりました。今後も、年齢にあった防災教育を提供させて頂ければと思います。多くの子ども達が危険な物から身を守り普段の生活から安全が守られればと思います。
今回、お忙しい中このような場を提供して下さった富士見台小学校の皆様に心より感謝申し上げます。

報告者 : スポーツ局　学校保健部　森本孝則 (physical care room T)

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】ローイング研修会

2022 年 10 月 16 日 (日)、東京メディカル・スポーツ専門学校にて「パラリンピアンから学ぶ、地域スポーツへの導き」というテーマで、障がい者スポーツ実技研修会を開催しました。講師には、東京 2020 パラリンピック競技大会にボート日本代表として出場した有安諒平選手をお招きし、理学療法士が障がい者スポーツに関わる上で求められる心構えや知識・技術についてご講演いただきました。

有安選手はパラリンピアンかつ理学療法士であり、選手の目線だけでなく、治療者・トレーナーとしての視点も含めたアスリートサポートの方法論について実技を交えながら学ぶことができました．　受講生アンケートでは、「障がい者として、パラアスリートとして、そして PT としての視点で講義をしてくださり、新たな知識や深い理解について学ぶことができた大変良い機会となった。」、「障がい者スポーツに興味はあったもののなかなか関わっていけていなかったが、今回の研修会で関わっていく上での心得を得られたため、とてもためになった。」などの感想があり、障がい者スポーツにすでに関わっている理学療法士だけでなく、今後関わりたいと思っている理学療法士にとっても大変有意義な研修会となりました。

報告者：スポーツ局　障がい者スポーツ部　須藤　久也（東京メディカル・スポーツ専門学校）

スポーツ局障がい者スポーツ部

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】発掘プログラム

東京都が、東京パラリンピックに向けて開始した継続事業の一つして、東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラムがあります。本プログラムは、障がい者がスポーツと出会う機会をサポートし、次世代を担うパラスポーツ選手の発掘を目的としています。

東京都理学療法士協会は、広報やプログラム見学、相談会の実施などに協力をして参りました。今年度は、9 月 23 日 (祝・金)、11 月 26 日 (土) の開催となり、プログラム内の「身体測定・体力測定」「競技体験会ボランティア」への協力依頼がありました。

9 月 23 日 (祝･金) 中央区立総合スポーツセンターで開催されたプログラムでの活動をご報告致します。参加してくれた PT は 21 名。午前は、身体障がい、知的障がいの 2 グループに分かれ、身体測定 (握力･アームスパン・肩柔軟性・立位体前屈) と 5 分間走測定を担当しました。

午後は、21 競技団体が集まり体験会が行われ、各競技に一人ずつ PT を配置し、参加者の競技体験のお手伝いをしました。

今回、初めて興味を持って活動に参加してくれた PT も多くいらっしゃいました。一人一人が元気に活動し、障がい者に対しての介助や声掛け、測定やスポーツをする上でのリスク管理など、日々リハビリ業務にあたっている知識・経験が活かされていたと感じました。

次回は、更に活動内容を拡大し、42 名でプログラムのお手伝いをする予定です。
社会で生活する障がい者の方が安心して楽しくスポーツできるように、医療的側面だけでなく、社会的側面の支援を、スポーツを通して活動していきたいと思います。

報告者：スポーツ局　障がい者スポーツ部　部長　多賀留美

委員長　齋藤　弘樹

倫理規定等に関する啓発活動

倫理委員会では、理学療法士の倫理厳守の意識を高めることを目的として「倫理規定」等に関する啓発活動を実施しています。

公益社団法人 日本理学療法士協会から倫理綱領が定められていますので、職場内でも共有して頂きたいと思います。(以下、日本理学療法士協会 HP より)

倫 理 綱 領

公益社団法人 日本理学療法士協会

序 文

公益社団法人 日本理学療法士協会（以下、「本会」という。）は、理学療法士の社会的な信頼の確立と、職能団体としての本会が公益に資することを目的として、「倫理綱領」を定める。

本会ならびに理学療法士が、高い倫理感を基盤として相互の役割を果たす中で、理学療法の発展と国際社会への貢献のために、より良い社会づくりに貢献することを願うものである。

一、理学療法士は、全ての人の尊厳と権利を尊重する。

一、理学療法士は、国籍、人種、民族、宗教、文化、思想、信条、家柄、社会的地位、年齢、性別などにかかわらず、全ての人に平等に接する。

一、理学療法士は、対象者に接する際には誠意と謙虚さを備え、責任をもって最善を尽くす。

一、理学療法士は、業務上知り得た個人情報についての秘密を遵守し、情報の発信や公開には細心の注意を払う。

一、理学療法士は、専門職として生涯にわたり研鑽を重ね、関係職種とも連携して質の高い理学療法を提供する。

一、理学療法士は、後進の育成、理学療法の発展ならびに普及・啓発に寄与する。

一、理学療法士は、不当な要求・収受は行わない。

一、理学療法士は、国際社会の保健・医療・福祉の向上のために、自己の知識・技術・経験を可能な限り提供する。

一、理学療法士は、国の動向や国際情勢を鑑み、関係機関とも連携して理学療法の適用に努める。

〇説明会・研修会のお知らせ

【理学療法士が安心して業務をするために必要な知識】

日時：令和 5 年 1 月 26 日（木） 受付開始 18：30 ～ 講義 19：00 ～ 20：15

内容：　①理学療法士賠償責任保険について　②理学療法士が加入できる団体保険について

説明者：三井住友海上火災保険株式会社（理学療法士賠償責任保険）横田　拓海 氏

損害保険ジャパン株式会社（医療・介護保険）宮原　拓也 氏

丸紅セーフネット株式会社（お申込方法について）阿部　啓介 氏

開催方法：当説明会は Zoom を用いてオンラインで行われます

参加費：無料（東京都理学療法士協会員限定の説明会です）

詳細・お申込みはこちら⇒倫理委員会説明会のご案内 | 公益社団法人 東京都理学療法士協会 (pttokyo.net)

【Professionalism プロフェッショナリズム】

日時：令和 5 年 2 月 3 日（金） 受付開始 18：30 ～ 講義 19：00 ～ 20：30

講　師：村永　信吾　氏（亀田総合病院　リハビリテーション事業管理部　部長）

会場：当研修会は Zoom を用いてオンラインで行われます。

参加費：無料（東京都理学療法士協会員限定の研修会です）

詳細・お申し込みはこちら⇒「Professionalism プロフェッショナリズム」 研修会お知らせ | 公益社団法人 東京都理学療法士協会 (pttokyo.net)

理学療法関連機器開発委員会

報　告

委員長　小川　智美

国際福祉機器展２０２２　視察報告

国際福祉機器展は今年度もリアル展示（会期：10 月 5 日から 7 日、会場：東京ビックサイト東展示棟）と Web 展（11 月 7 日終了）のハイブリッド開催となりました。コロナ禍での国際福祉機器展開催は 2 年目となり、会場や展示ブース数も昨年よりも拡大し、活気を取り戻しつつある印象を受けました。

今回、画期的な展示は車椅子のシーティングシミュレータでした。対象者が車椅子シミュレータに座ることで、シミュレータの車椅子の座面の高さや車輪の位置を電動で変化させ、座り心地や車輪のハンドリムの操作性の良い条件を探します。次に搭載されたセンサーが重心位置、ハンドリムの操作スピードなどを定量的に測定することで、シーティングを評価できるそうです。残念ながら、実用化にはもう少し時間が必要とのことでしたが、今後もデータ数を積み重ね、これまで主観的に行われてきシーティング評価が、数値化され客観的に評価できることにより、将来的には体格や障害などと解析データから対象者に最適なシーティングを導き出したいとのことでした。

次に、開発中の一人乗り電気自動車は車椅子を車両に載せることを容易にする工夫がなされていました。助手席側にあるフックに車椅子をかけて、スイッチひとつで助手席にあたる場所に車椅子を載せることができるものです。これを可能にしたのは、運転者が助手席から乗り込み、その助手席が運転席へスライドするという機能です。デモンストレーションをしてくださった開発者のおひとりの方は、運転席への移乗方向が変わるので初めは違和感もあったが、車椅子を載せる際の作業はフックに取り付けるだけでよいのでずいぶんと楽であると話されていました。この自動車には他にも運転補助装置設置など今後の開発が期待されます。この会社では、他にも電動車椅子での階段昇降や砂浜走行、アプリでの操作などの開発が続けられています。

また、介護分野や高齢者対象のブースも例年同様に目立っていました。見守り支援ソフト、電子カルテ化、コミュニケーションロボの進化など、働き方改革による時短の達成や対象分野における人員不足解消、単身高齢者の安心した生活に対応した IT 機器の発展も見受けられました。

展示されていたさまざまな機器は機能に加えて、使う人の心身の快適さ、社会参加への意欲向上などデザイン性や感染対策に配慮した製品などの発展を続けています。

最後になりますが、ここに報告した内容はあくまでも国際福祉機器展の展示のごく一部であること、また見学者数名の主観をまとめたものでありますことご了承ください。

これまで参加機会がなかった方、毎年参加されている方も、ぜひ国際福祉機器展に足を運び、直接製品などの情報に触れてみてください（2023 年は 9 月 27 日から 9 月 29 日　東京ビックサイト東展示ホールにて開催予定）。

＊国際福祉機器展は原則撮影禁止のため、機器の写真掲載はしておりません。

国際福祉機器展における展示機器の詳細は保健福祉広報協会ホームページ H.C.R.Web サイト https://hcr.or.jp/ をご覧ください。

＊公益社団法人の特性上、企業名、製品名の掲載は控えております。

部長　中山　雅和

■　機関誌『理学療法　東京』投稿募集のお知らせ　■

当士会では年一回、機関誌『理学療法　東京』を発行しており、投稿原稿を常時募集しています。投稿された原稿は査読者に依頼し掲載可能とみなされれば校正ののち、その時点で最も発行が近い『理学療法 東京』に掲載します。

生涯プログラムへの反映について

・新人教育プログラムは、反映されません。

・認定・専門理学療法士制度では，『3.-4) その他の査読付きリハビリテーション関連雑誌の筆頭著者 10 ポイント』に該当します。

＊ただし、内容によって専門分野での認証されない場合があります。反映される方は、発刊後に自己申請をお願い致します。

《執筆投稿規定》

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

1）標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。

2）キーワード：標題及び要旨から 3 個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3）著者名、所属名

4）要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて 400 字程度で記載する。

5）本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合、最初の 2 名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

＜表記例＞

・藤田信子，桝田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動―筋電図学的分析．理学療法学 ,17:27-30,1990.

・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.

・真島英信，猪飼道夫：生体の運動機能とその制御 . 杏林書院 , 東京 ,1972,pp185-193.

・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths,London,1983,pp224-227.

6）図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として 400 字詰め原稿用紙 20 枚・8000 字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字，単位は国際単位系　（SI 単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁，著者頁

　論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード (3 個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先（住所・電話番号・Email アドレス)を記載する。表紙頁, 著者頁の後に要旨･本文･図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

　原稿にはページ番号（最下部中央）と本文右（または左）に５行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1）原稿送付先

原則として投稿原稿一式を 1 つのファイルにまとめ、電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2）原稿送付先および連絡先

〒 189-0024　東京都小金井市中町 2-22-32

社会医学技術学院　　理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL：042-384-1030

FAX：042-384-8508

E-mail：pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

（平成 31 年 1 月 31 日　改定）

編集後記

東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？東京都内でも COVID-19 感染者数も第８波と高い状況は続いております。ただここにきて対面学会も始まってきており、第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会や第 9 回日本予防理学療法学会もハイブリッドにて開催されました。久しぶりの対面学会にて様々な交流が再開しつつあります。私たちの学びも社会情勢により大きく左右されますが、前に進むことの重要性は何ら変わりないと思います。(M.I)

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

10,100 名（令和４年１１月２５日現在）

（事務局）　〒 151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5　バロール代々木４０９号

Tel：03-3370-9035　FAX：03-3370-9036